

八戸市地域おこし協力隊活動状況報告書

八戸市長
熊谷 雄一 殿

隊員氏名 福岡 沙織

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2023年2月分】

1. 実施した活動の概要・状況

2月はふるさと寄附金業務、ECサイト・ローカルマーケットオンラインショップ運営、広報活動、えんぶりへの従事を行った。また、青森県内の地域おこし協力隊交流会のほか、協力隊活動についての勉強会、市内バスツアー視察やSNS発信に関する勉強会にも参加した。

(主な活動)

◇2月10日(金) 陸奥湊クルーズ視察

株式会社みちのりトラベル東北主催で2022年12月から2023年2月まで運行した「陸奥湊クルーズ」に参加した。第二魚市場、蕪嶋神社、八戸酒造や屋形船サンセットクルーズなど八戸市内の観光名所を貸し切りバスで巡る企画であった。長年、八戸に住んでいても見たことがない景色が多くあることに驚いた。さらに各見学場所の担当者やバスガイドの方が思う、もっとアピールしてほしい場所や歴史について、生の意見を伺うことができた。

また、ツアー全体で外国人観光客の多さを感じた。八戸酒造ではスマートフォンを利用し、外国人観光客と一緒に見学を行うなど、各社でインバウンド対応を進めていることが分かった。VISITはちのへとしても、インバウンド客に対する各観光名所への誘導體制の構築をさらに進めていくべきだと感じた。



屋形船「新井田丸」



八戸酒造

◇2月17日（金）～2月20日（月） 八戸えんぶり従事

3年ぶりに行われた「八戸えんぶり」の全日程に運営スタッフとして参加した。初日は八戸市中心街で行われた「一斉摺り」の来賓席設営、2日目からは更上閣で行われた「お庭えんぶり」の会場案内、最終日は八戸市庁本館前市民広場で行われた「一般公開」「かがり火えんぶり」の運営補助をした。

後継者不足ともいわれる中、子供たちが多く参加し、地域全体で伝統を守り続けていることを感じた。そして県外・海外からの観光客が非常に多いことに感動した。自分が学生時代にえんぶりを見に行くことがなかったため気づかなかったが、多くの人に愛される伝統行事であることを知った。特に18日は、会場スタッフが明治初期の装いと南部弁で来場者を出迎える特別公演として、通常公演より高い料金設定にも関わらず完売し、さらに来場者からは喜びの声をいただいた。

企画や演出に付加価値をつけることで、えんぶりの価値が高まり、観光客がさらに増えることにより後継者不足の問題解決にもつながることから、来年もこのような活動に携わりたいと強く感じた



お庭えんぶり



会場となった更上閣

◇2月22日（水）青森県地域おこし協力隊定着支援研修会 参加

青森県主催の研修会に参加した。地域おこし協力隊OB・OGの体験談や任期満了後の起業状況、転職・起業支援団体講師によるセミナーを受けた。

3年間という限られた中で任務を遂行するためには、具体的な計画と行動を自主的に行うことが大切だと痛感した。また、他の協力隊員と初めて顔を合わせ、互いの活動状況やSNSを紹介し合うことができた。協力隊員のつながりを作り、情報を共有し合うことで、青森県の協力隊活動と地域活性化に相乗効果が期待できるのではないかと感じた。

◇県南とれたて情報（BeFM）出演

VISIT はちのへのラジオ番組「県南とれたて情報」に出演した。今回は地域おこし協力隊の紹介と自己紹介をした。これから広報活動をしていくために、話し方、見せ方など考えさせられる良い機会となった。

2. 翌月の活動予定

ふるさと寄附金業務、EC サイト業務、SNS・情報発信、ラジオ出演、SNS用写真・動画撮影勉強会参加、岩手県釜石市先進地視察